●マスクの着用・こまめな手洗い・消毒・うがいをし、3密を避けましょう。 ●新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、イベントは中止・延期となる場合があります。詳しくは市⊞へ**●**





2月17日~3月15日

晶子とスペイン風邪 類への問いかけー

与謝野晶子が活躍していた大正7~9年に猛威を振るったスペイン風邪について、当時の新聞記事や注意を呼び掛ける ポスター、晶子の評論をパネルで展示し、未知の感染症の恐ろしさとそれに向き合う晶子の強い意志を紹介します。 ■ 2月17日~3月15日 場所さかい利晶の杜(堺区宿院町西2丁1-1) 休館日などは18ページ参照。

問さかい利晶の杜(☎260-4386 FAX260-4725)

感染症に立ち向かう晶子の意思

歌人として知られる与謝野晶子ですが、数多くの社会評論も執筆しています。その中に は、世界中で4,000万人もの犠牲者を出し、日本国内でも50万人近い死者を出したス ペイン風邪について記述したものがあります。

■政治への批判

大正7年11月に発表された「感冒の床から」(横浜貿易新報〈現在の神奈川新聞〉初出) では、「政府はなぜ逸早くこの危険を防止する為に、大呉服店、学校、興行物、大工場、大 展覧会等、多くの人間の密集する場所の一時的休業を命じなかつたのでせうか」とスペ イン風邪への政府の対応を批判しています。これは、感染者数は多かったものの死者は さほど多くなかった「前流行」の状態で書かれたものです。

■生きるための予防を

一方で感染後の致死率が上昇した「後流行」のさなかの大正9年1月に書かれた「死の 恐怖」(横浜貿易新報)では、「死の恐怖を意識せずにはいられない」と心情を記します。 感染症の猛威の中で、「死は大いなる疑問です。その前では一切は空になります」と自ら

の死生観を述べます。また、「人事を尽す」ことが人生の 目的であり、感染症流行の中で、うがいや予防注射など生 きるために手を尽くすべきであり、世間にあふれる予防を 行わない人たちに、自己の生命を軽んじてはならないと 諭します。

■知恵と勇気を伝える強い意志

晶子が残した記述から、感染症の流行に向き合い生きる ために手を尽くそうとする彼女の強い意志を読み取るこ とができます。それは新型コロナウイルスの脅威に直面 している現在の私たちにも知恵と勇気を与えてくれるで (学芸員·矢内一磨)



にあタな朝 るせ嗽合

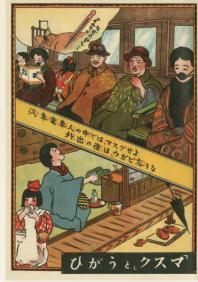


うがいが、スペイン風邪予防に有効 であるとして、朝夕にうがいを勧める ポスターです。 バックの都会の風景には黒いマスク をした町ゆく人々が描かれています。



当時の政府が発行した啓蒙ポスク

ハヤリカゼ (スペイン風邪) は、至近距 離(密空間)でのセキで感染するの で、セキをするときは、口を手で押さえ るように呼びかけています。



「汽車電車人の中ではマスクせよ外 出の後はウガヒ忘るな」。百年後、コ ロナウイルスに直面する私たちにとっ ても大切なメッセージです。

YouTube

さかい利晶の杜動画チャンネル

与謝野晶子記念館へようこそ! ~晶子の子育てコーナーを紹介~



少しでもおうち時間を楽しんでいただけるように、 さかい利晶の杜では、展示室の見どころを紹介する 「おうち時間で学ぼう!」シリーズ動画を随時公開 しています。最新作「与謝野晶子 わが子の育て 方」では、12人もの子どもたちに囲まれながら仕事 をしていた晶子の子育ての様子を紹介。

晶子と子どもたちの日常の風景を感じられる内容で す。どうぞご覧ください。



「スペイン・インフルエンザと与謝野晶子」 動画を配信中

皆さんから寄せられた質問に学芸員がお答えするかた ちで、スペイン風邪の流行時に晶子やその家族が取っ た行動を、晶子の記述を交えながら紹介します。

ΤΑΚΑΒΑΥΑ

2月13日~3月21日

戦前から戦後を生きた堺出身の画家・髙林和作の企画展を開催します。戦後の我が国の洋画壇の状況を嘆 き、「サバク」に例えた髙林は、青を基調に色の対比を意識しながら線描を重ねる独自の作風を確立させま した。固有色にとらわれず純粋な色彩の対比で表現した髙林の創作の軌跡をお楽しみください。 日程 2月13日~3月21日 場所 さかい利晶の杜(堺区宿院町西2丁1-1)

高林 和作(1900-1968) フランスに渡り、固有色から離れた純粋な色彩の対比

による平面的な構成を特徴とするフォーヴィスムの影

響を受けました。帰国後は京都を拠点に活動し、京都

市立美術大学(現在の京都市立芸術大学)の西洋画

科で教壇に立ちました。晩年まで、創作旅行や屋外制

作を精力的に行い、多くの風景画を描きました。しか

し、美術団体などに所属せず、個展を中心に作品を発 表してきたため、これまで髙林の画業が広く紹介され

る機会は多くありませんでした。なお、髙林が世に出し

た全作品のうち3分の2は、遺族の方から譲られ堺市

博物館が所蔵しています。

問さかい利晶の杜(☎260-4386 FAX260-4725)









「港の春」



「材木河岸」

WASAKU



髙林和作は、北区百舌鳥赤畑町生まれの洋画家です。

生家である「髙林家住宅」 【左写真・非公開】は、現在、主屋と門廊などが重 要文化財に指定され保存されています。髙林家は、戦国時代から続く名家 で、江戸時代には徳川御三卿の一つ、清水家の和泉国にあった領地を治 める大庄屋でした。江戸時代後期には文化面でもこの地の中心的な存在 として、詩文・書画に携わる多くの人々が来訪しました。主屋玄関には幕末 三筆の一人・市河米庵(1779-1858)が大字屏風を書き、奥座敷には、大 坂画人・須賀蘭林斎(1731-1806)が水墨山水の障壁画を描いてます。 このような環境で髙林は幼少期を過ごし文化的素養を育みました。

(学芸員·三好帆南)

「寒林山人独楽画冊(部分)」

関連展示

髙林和作と文人の世界 はんたいぬりえをしてみよう が晩年に描いた画冊【左画像】を展 て塗り絵をするワークショップを開催。

日程 2月17日~3月15日

K墨画にも関心を寄せていた髙林 髙林和作にならって、色の対比を意識し

日程2月13日~3月21日の随時

髙林和作に挑戦!

先着各回6人 ¥無料

動画「オンライン学芸トーク」を配信

高林和作の作品について皆さんから寄せられた質問に対して、学芸員が解説する動画を、3月中旬にYouTube 「さかい利品の杜動画チャンネル」で配信します。

